

第2520地区

 ひろがれ
 まわれ
 一つ心に
 2017~2018

MORIOKA
 ROTARY CLUB WEEKLY

第12回例会(10月13日)
 平成29年10月20日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10 会 長 飯塚 肇
 川徳デパート内 幹 事 星 克彦
 例 会 場 同上 TEL 019(651)1111(代) 会 報 伴 亨
 例 会 日 毎週金曜日12時30分~ クラブ事務局 TEL 019(653)5682
 http://www.morioka-rc.jp/ FAX 019(653)5622

RI会長テーマ ROTARY: MAKING A DIFFERENCE. 'ロータリー:変化をもたらす'... イアン H.S. ライスリー
 盛岡RC会長テーマ ーもう一度、奉仕ー...飯塚 肇



ゲスト卓話

『米山梅吉翁と彦部村』

紫波町文化財調査委員

まさひろ
 長澤 聖浩 様

●スピーカー紹介●

1977(昭和52)年、紫波町大巻生まれ。
 岩手県立農業大学卒業後(財)岩手生物工学研究所勤務。現在は(株)佐藤正行種苗に勤務。
 平成18年に紫波町文化財調査委員に任命され、町内の文化財の調査研究にあたる。著作活動も精力的で、「農家の年中行事」「三井報恩会と岩手県彦部村」「福は人の足音を聞いて育つ」など、多くの著書を執筆。
 平成25年1月 NHK BSプレミアム「新日本風土記 東北の冬」にて活動が紹介される。平成29年8月「赤石渡船場物語」で平成28年度岩手県芸術選奨受賞。
 (米内 正会員)

今日はロータリーの設立者である米山梅吉翁と岩手県彦部村との関係についてお話します。米山梅吉氏は三井信託銀行の初代社長として知られる経済人であります。三井の歴史は江戸時代の延宝元年(1673)三井越後屋として創業したのが始まりで、明治時代には三井合名株式会社を組織し、日本を代表する企業として国内外で活躍し、財閥を形成するに至りました。

ところが、財閥だけが利益を独占するという批判が高まり、三井合名理事長の団琢磨が暗殺されるという事件が起こります。これにより三井では経営方針を大きく転換。3,000万円(現在の貨幣価値にして数千億円余)という巨額の資金を寄付し昭和9年(1934)に三井報恩会という社会事業財団が設立されました。その初代理事長が米山梅吉氏でありました。

当時東北地方の農村は非常に苦しい状況でした。経済恐慌による米価、生糸価格の大暴落、昭和8年(1933)には三陸大津波、昭和9年(1934)には東北地方大冷害という大変な時期でした。農民は生活に苦しみ、娘の身売りや欠食児童が社会問題になったのです。この際救いの手をさしのべたのが、米山梅吉氏が理事長の三井報恩会でした。

三井報恩会では被害の大きかった青森県と岩手県から1カ村ずつ経済更生のモデル農村を指定することになり、青森県西平内村と、岩手県彦部村を指定しました。青森の平内町(旧西平内村)は浅虫温泉の東側に位置し養殖ホタテ日本一のホタテの町、津軽三味線の高橋竹山の生誕地としても知られています。

彦部村は現在の紫波町の東側に位置し、北上川に沿って北から犬吠森、星山、大巻、彦部の4集落が南北に細長く連なっており、古来より稲作が盛んな米どころとして知られています。地域の先

輩には銭形平次の作者として知られる野村胡堂があり、集落の丘の上には「野村胡堂・あらえびす記念館」があります。

こうして彦部村は、昭和10年(1935)2月に三井報恩会より農村振興のモデル農村に指定されました。昭和10年(1935)から15年(1940)までの指定期間に当時の村の年間予算が21,700円の時に、報恩会より5カ年で35,800円という巨額の資金を援助されました。

彦部村で行われた事業は大きく4つあります。1つ目が指導組織の構築。村内15区に農事実行組合を組織し、農作業を共同で行い、毎月常会(会合)を行いました。当時の実行組合は現在もそのままの形で存続しています。

2つ目が農業生産。乳牛や綿羊を飼育し、ムシロなどの藁製品を生産し、農家の副収入源を確保しました。3つ目が産業組合(現在の農業協同組合)の経営内容を改善。一度破綻した産業組合を立て直しました。4つ目が生活改善指導。台所改善や農繁託児所の設置などを行いました。

有畜農業の推進ということで、村では報恩会がオーストラリアやニュージーランドから輸入した綿羊100頭を導入。貨車で日詰駅まで運ばれた綿羊はそこから彦部村まで約4km歩いてきました。彦部地内の橋を綿羊たちが渡る写真が残されています。村にはホームスパンの加工場が建築され、染色、機織りまで全て行い岩手県内の多くの村から娘さんたちが彦部に学びに来たそうです。後には生産したホームスパンを秩父宮殿下に献上するという栄誉も得ました。

乳牛のホルスタインは北海道の町村牧場より導入してバター生産が行われ、盛岡の公会堂多賀(洋食店)に納めていたそうです。これら乳製品の生産が基になり、戦後紫波町古館には不二家の

練乳工場が誘致されたのでした。村内に建築された共同作業所では、村の女性達が集まってムシロやカマスの生産が行われ、女性たちも収入を得るようになりました。

春と秋の農繁期には小学校に託児所が設置され、農家の主婦らに大いに喜ばれました。この託児所も岩手県内に先駆けて開設され、周辺の村々に広がっていったそうです。彦部村中心部には「三井報恩会特定振興村」と書かれた大きな木柱が立てられ、村人らの誇りとなっていたそうです。

昭和11年6月7日、米山梅吉理事長はじめ報恩会の役員の方々が彦部を訪れました。この時米山さんは彦部村をくまなく視察されました。彦部小学校に米山さんがいらっしゃって子供達にビスケットをお土産に持ってきたそうです。これは米山さんがポケットマネーで買ったものらしく、しかも全校児童に一箱ずつ配ったそうで、当時お菓子など食べた事も無かった子供らは大変に驚き大喜びしたという逸話が残っています。また、彦部で生産されたバターも自ら購入して蔭ながら販売に協力するという温かい心の持ち主であったようです。

5年間の指定期間で、彦部村の村民所得は約2倍に増加。地域経済は大きく改善され、岩手県農村の手本とされるまでに至ったのです。ところがその後戦争の時代となり、終戦後には財閥が解体されます。時代の大きな流れの中で、報恩会と彦部との繋がりは途絶えてしまいました。

それから長い年月を経て70年後、平成18年より彦部地域の歴史研究グループが活動する中で、米山梅吉氏が行った彦部村での三井報恩会の活動に再び光があたり、平成23年より静岡県三島の米山梅吉記念館及び東京の三井報恩会、同時に指定された青森県平内村との交流が始まりました。これを契機として、彦部村では米山梅吉氏と報恩会に感謝しなければとの声がおこり、平成26年6月11日に当時の木柱を復元した記念碑を建立し、記念式典を行いました。当日は米山梅吉記念館の関係者や三井報恩会理事長ら多くの関係者出席のもとで盛大に行う事ができました。

私達彦部地区民は、米山梅吉翁より受けた御恩に感謝し、これからも米山梅吉氏と三井報恩会の業績を末永く語り継いでゆきたいと願っています。

例会報告

第12回例会
平成29年10月13日(金)

12時30分 開会点鐘

- ・司会 飯塚 肇会長
- ・ロータリーソング 我らの生業
- ・四つのテスト斉唱
- ・ゲスト 長澤聖浩様(紫波町文化財調査委員)
- ・会長報告 飯塚 肇会長
- ・皆出席バッチ 藤村吉隆君(3年)。
- ・誕生祝 盛田洋太郎・岡村 弥君。
- ・結婚祝 岡村 弥君。
- ・幹事報告 吉江信博副幹事
- ・委員会報告 大平親睦委員長：職場訪問と秋の懇親会のご案内の

訂正について NHK盛岡放送局の職場訪問は16:00集合、またマリオスからのバスの乗車はマリオス前西口ロータリー28番乗り場からと変更

【ニコニコBOX】

- ◆勝部民男君…長澤さん卓話有難うございます。長澤さんとは紫波町の文化財委員を共に担っている仲です。長澤さんから紫波町彦部村とロータリーの先達米山梅吉翁の関連をお聞きしたかったのですが別な会議で早退しますので、お詫びのニコニコします。
- ◆米内 正君…長澤聖浩さんの本日の卓話で米山梅吉翁の遺徳、およ

び三井報恩会が彦部村に展開した復興事業の全貌を知ることができました。しかもこれをきちんとまとめた形にしておりますので、後世に残ります。たいへん素晴らしいことです。ありがとうございます。感謝をこめてニコニコします。

●メイクアップ

仙台青葉R.C.=橋本君。地区=米内君。盛岡北R.C.=作田君。盛岡東R.C.=熊谷(祐三)君。クラブ委員会=伴・藤村(文)・早坂・飯塚・工藤(幸)・檜崎・荻野・齋藤(聡)・堺田・千崎・土屋・海野君。

出席報告

会員数/75名

出席数/35名

出席率/49.32%

前々回/84.72%

プログラムのお知らせ

- ・10月20日(金) 第2回クラブアッセンブリー
- 26日(木) 秋の懇親会(27日例会変更)
- ・11月 3日(金) 祝日休会
- 10日(金) 米山奨学生卓話 タンバンペンストン シラナット さん
- 17日(金) 卓話
- 24日(金) 特別休会

●本号編集担当/荻野 忠良